

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所	昭和41年2月1日	石澤 宣子	〒 933-0947 (住所) 富山県高岡市本郷二丁目1番35号 (電話) 0766-24-9512																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 高岡第一学園	昭和34年4月1日	川原 修平	〒 939-1113 (住所) 富山県高岡市戸石代307番地3 (電話) 0766-63-3388																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
教育・社会福祉	教育社会福祉専門課程	幼児教育科	平成6年文部科学省告示第84号	—																			
学科の目的	学校法人高岡第一学園の建学の精神は、人格形成を重視し愛情豊かで使命感に燃え社会の発展・推進に貢献する有能円満な人間を育成することであり、その具現の為、幼児教育の重要性を踏まえ、また地域のニーズにこたえるために幼稚園教諭及び保育士を養成することを目的としている。																						
認定年月日	平成31年4月28日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	91	38	39	14	0	0																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
120人	39人	0人	12人	20人	32人																		
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 筆記試験、レポート等により評価 評価の方法: 優・良・可・不可																			
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月21日～8月31日 ■冬季: 12月21日～翌年1月10日 ■学年末: 3月21日～3月31日		卒業・進級条件	学則 第3章 第11条(教育課程) 第4章 第23条(卒業) による所定の課程を修了している者																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任及び副担任による本人との面談。 学年末に保護者懇談会(三者面談)を実施。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 幼稚園・保育所・認定こども園・社会福祉施設等でのボランティア活動 ■サークル活動: 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 幼稚園・保育所・認定こども園、社会福祉施設		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																			
	■就職指導内容 保護者懇談(三者面談)実施、就職希望調査実施、就職模擬試験実施、就職相談カードの活用、就職内定まで継続的な指導実施(面接練習、実技練習、作文・論文指導等)			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許状</td> <td>①</td> <td>26人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>保育士資格</td> <td>①</td> <td>26人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>レクリエーション・インストラクター</td> <td>①</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	幼稚園教諭二種免許状	①	26人	26人	保育士資格	①	26人	26人	レクリエーション・インストラクター	①	25人	25人
資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																			
幼稚園教諭二種免許状	①	26人		26人																			
保育士資格	①	26人		26人																			
レクリエーション・インストラクター	①	25人		25人																			
	■卒業生数 26 人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。																				
	■就職希望者数 26 人		①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの																				
	■就職者数 26 人		②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの																				
	■就職率 100 %		③その他(民間検定等)																				
	■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %		■自由記述欄																				
	■その他 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																						
中途退学の現状	■中途退学者 5名 令和3年4月1日時点において、在学者5名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者4名(令和4年3月31日卒業生を含む)		■中退率 10%																				
	■中途退学の原因 経済的問題、進路変更、学力不足		■中退防止・中退者支援のための取組 奨学金・高等教育の修学支援新制度の推奨、保護者との連携を基本にクラス担任による個別指導を実施、必要に応じて所長と協力して学生に対応している。 進路変更を考えている学生に対して、就職であればハローワークとの連携を図り対応している。 他の分野への進学を考えている学生に対しては、担任が面談を実施。																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入		■専門実践教育訓練給付: 無 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載																						
当該学科のホームページURL	http://www.takaoka1.com/youseisho/																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成に関しては、「教育職員免許法、同施行規則及び教員養成機関指定基準」並びに「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」について等、幼稚園教諭・保育士の養成施設として定められた規定に基づいて教育課程の編成を行うとともに、幼稚園、保育所、福祉施設等との連携を密にし、その意見や要請を教育課程の編成に活かすよう実習実施・学生の資質向上に関して下記の通り実践する。

- * 幼稚園実習では実施計画・実施方針・指導方針等、事前に協議し、事後反省会で取り上げられた内容を精査する
- * 専門性に優れた指導者を招聘し、実技・講義等を通して学生の資質向上を図る
- * 「ようこそ先輩」による職場での実践的なイメージを身近に体得する機会をもつ
- * 幼稚園・保育所・施設等との連絡を密にし、保育技術・技能の提携など教育方法の取り組みを検討する

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 教育課程編成委員会規則・規定により教育課程編成委員を置く。また、本規則・規定により委員の構成、運営、会議等について定めている。教育課程編成委員会の意見は、高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所での教職員会議の議題として論議し、決定事項として教育課程に反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
小林 真	富山大学 教育学部 教授	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	②
小島 伸也	社会福祉法人 わかば福祉会 理事長	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	①
堀 幸枝	高岡第一学園 附属第五幼稚園 園長	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	③
奥田 美代子	高岡第一学園 福岡ひばり園 副園長	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	③
床 サユリ	高岡第一学園 附属第三幼稚園 教頭	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	③
吉澤 正人	高岡第一学園 附属第一幼稚園 主幹	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	③
石澤 宣子	高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 所長	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	—
古村 勇樹	高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 総務	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	—
本林 由絵	高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 教務	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	—
橋本 和美	高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 実習担当	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	—
平川 杏奈	高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 総務	令和3年12月20日～令和5年12月19日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年2月21日 14:00～15:00

第2回 令和4年6月16日 15:30～16:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

令和4年度より新カリキュラム「領域に関する専門的事項」をスタートさせるため、文部科学省へ申請中であることを報告。これまで小学校の教科で実施してきたものが領域の科目になることで、これまで十分に時間を確保してきた音楽が、かなり時間数が減少することについての協議がなされる。委員の小島氏は、自分が得意な保育技術を持つ先生が少なくなっていることに懸念を示しており、音楽表現や造形表現等の領域を伸ばしてほしいと話す。また、委員の吉澤氏は、音楽表現や造形表現を学びながら同時に「美しい」「きれい」と、心に響かせて感性も養ってほしいと話す。文部科学省より承認されれば、令和4年度入学者より新カリキュラムがスタートする。時間数が減ってしまう音楽に関しては、講義回数以外にも空いた時間を利用して音楽的な内容を実施できるように工夫していきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習は「教育実習」「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅱ（保育所）」「保育実習Ⅲ（施設）」を実施する。幼稚園での教育実習は本学園の附属幼稚園で行う。また保育実習は、富山県の養成校で構成される保育実習連絡協議会を通して各市町村、施設に配属を依頼している。その際保育実習連絡協議会内で情報共有を図り、学生の実習受け入れの実績があり、専任の指導体制をとることができる保育所、福祉施設を選定している。実習にあたっては、幼稚園、保育所及び福祉施設等の要請を十分に生かし、十分な連携の下、保育者として必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習先と学校の連携により、保育者としての資質・能力の獲得、拡充を推進する機会となるよう計画している。具体的には、各実習の事前学習として実習先の職員によるオリエンテーションを実施している。また教育実習においては、二年次の本格的な実習に向け、一年次に授業の一環としての見学実習を行うことで保育現場を把握する機会としている。また、課外活動として運動会や夕涼み会、幼稚園祭りなどの行事に参加している。保育実習では、施設見学を実施している他、保育所や福祉施設に実習中の巡回指導を通じて、実習が円滑に行われ充実したものになるように連携している。学修成果の評価については本所の設定した項目で実習施設が評価をし、それらを踏まえて単位を認定している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
教育実習	幼稚園実習は幼稚園教育の本質、幼稚園の機能と役割を実践現場での体験を通して理解し、幼児教育者としての使命や責任、役割について学ぶ。	高岡第一学園附属第一幼稚園・認定こども園第二幼稚園・附属第三幼稚園・附属第五幼稚園・認定こども園福岡ひばり園
保育実習Ⅰ（保育所）	実践現場での体験を通して保育所の役割、保育士としての職業倫理、子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。保育の実際に接し、また子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達と保育所保育の意義について理解する。	富山県保育実習連絡協議会より依頼した、公立・私立保育所、認定こども園 (総数20)
保育実習Ⅰ（施設）	児童福祉施設の社会的な機能と役割を実際に現場での体験を通して学ぶ。子どもや利用者の実態に触れ、児童福祉施設に対する理解を深める。またそこでの保育士の役割と仕事を理解する。	富山県保育実習連絡協議会より依頼した児童福祉施設・社会福祉施設 (総数7)
保育実習Ⅱ	保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。保育所の機能等を、体験を通して理解するとともに、これまで学んだ知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。	富山県保育実習連絡協議会より依頼した、公立・私立保育所、認定こども園 (総数25)
教育実習指導	実習前は、幼稚園教育実習の意義と目的を理解し、他の教科との有機的な関連の中で実習が行えるようにする。実習後は、自らの実習を振り返り、自己評価する。また、他者との協議・報告を通して、保育を省察していく方法や、保育者として向上していくための現時点での自己の課題を明確にしていく。	高岡第一学園附属第一幼稚園・認定こども園第二幼稚園・附属第三幼稚園・附属第五幼稚園・認定こども園福岡ひばり園

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は、「学校法人高岡第一学園 高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 教員研修規程」に基づき、教員が実践的かつ専門的な職業教育を実施するにあたり、現在担当し、又は将来担当することが予想される職務の遂行に必要な最新の知識、技術、技能並びに授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修機会を計画的に確保し、教員の能力及び資質等の向上を図ることとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	令和3年度全国保育士養成セミナー	連携企業等:	一般社団法人 全国保育士養成協議会
期間:	令和3年9月16日(木)～17日(金)	対象:	専任教員1名
内容:	「保育者養成校の存在意義を問う」をテーマにオンラインでの受講となった。養成校教員の倫理責任の自覚を促すため、授業への取り組みについての議論が喚起されたように思う。社会生活の維持に欠かせないエッセンシャルワーカーである保育士を養成する立場として、専門的知識・技術等の向上にこれからも努めていかなければならないと感じた。		
研修名:	JAPEW SUMMER SEMINAR 2022	連携企業等:	公益社団法人 日本女子体育連盟
期間:	令和3年10月2日(土)～3日(日)	対象:	専任教員1名
内容:	「新学習指導要領の下でのダンス学習と学習評価」をテーマに、関伸夫氏による新学習指導要領を踏まえたダンスで育成を目指す資質・能力及び学習評価についての講義が行われた。演習では、「動きを見る眼を磨く～見逃してはいけないところ～」をテーマとし、村田芳子氏、幅田彩加氏から、それぞれの立場でテーマについての解説や実践報告がなされ、参加者同士のグループワークも含め、ダンスの「いい動き」とは何かについてディスカッションが行われた。		
研修名:	2021年度全国保育士養成協議会中部ブロック第24回セミナー	連携企業等:	全国保育士養成協議会 中部ブロック協議会
期間:	令和3年11月27日(土)	対象:	専任教員1名
内容:	「今 子どもに必要なヒト・モノ・コト～withコロナ・afterコロナの保育を考える～」をテーマにオンラインでセミナーを受講した。保育士養成校では遠隔授業への変更を余儀なくされたことから、オンラインのための環境整備が一気に進み利便性が向上した。授業内容の見直しをする良い機会となるなど前向きに捉える一方で、実習や対面での実技科目で以前と同等の教育効果を得るためにどうしていくかが今後の課題である。		
研修名:	保育研修会・確保に関する意見交換会	連携企業等:	富山県子ども支援課
期間:	令和4年3月7日(月)	対象:	専任教員1名
内容:	富山県内の保育士養成校と保育関係団体等がオンラインで意見交換を行った。協働で保育者を養成・育成するために双方が感じる情報を共有できたと思う。また、コロナ禍で実践の場が減っている学生もおり、ICT機材を使い現場の様子を配信する等、現場のイメージをもてるような授業をする養成校も見受けられた。		
研修名:	全国幼稚園教員養成機関連合会令和4年度春季定期総会	連携企業等:	全国幼稚園教員養成機関連合会
期間:	令和4年6月17日(金)	対象:	専任教員1名
内容:	松本由布子氏(文部科学省)より「幼稚園教員養成機関に係る近年の動向について」の講演が行われた。実地視察がオンラインでも可能となり、視察可能数が増加することであった。また、他の養成校の視察をされているところがあり、本所でもそのような機会を設けていくとよいと考える。		
研修名:	令和4年度全国保育士養成協議会定時総会	連携企業等:	一般社団法人 全国保育士養成協議会
期間:	令和4年6月18日(土)	対象:	専任教員1名
内容:	鎮目健太氏(厚生労働省)より行政の説明が行われた。保育行政の動向や課題が明確になり、今後の保育士の養成や確保に努めていきたい。		
研修名:	公開保育	連携企業等:	高岡第一学園認定こども園福岡ひばり園
期間:	令和4年7月12日(火)	対象:	専任教員2名
内容:	「子どもが主体的に遊ぶことができる保育環境」をテーマに、年少児を対象とした「砂遊びをしよう」の保育が行われた。遊びを充実させるための環境構成や保育者の関わり方をPDCAサイクルを活用しながら本時に繋げていた。全教職員が関わることに對しての工夫が見られ、保育を振り返り、次のより良い保育に繋げていくことの大切さを学んだ。		

②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 令和3年度教職員研修会	連携企業等: 一般社団法人 富山県専修学校各種学校連合会
期間: 令和4年2月28日(月)	対象: 専任教員1名
内容 「アフターコロナにおける専修学校を取り巻く募集環境の変化について～組織マネジメントの在り方とは～」をテーマに講演が行われた。コロナ禍でオンラインでの学生募集やオープンキャンパスが増加した。遠方まで出向かなくて済むというメリットもあるが、対面で雰囲気を知りたいという意見もあると知った。また、これからの学校運営においては、組織一丸となって同じ方向を向き学校の強みや魅力を伝えていくことで、それが学校を取り巻く社会に認められることに繋がるとわかった。	
研修名: 奨学金説明会	連携企業等: 日本学生支援機構
期間: 令和4年3月15日(火)	対象: 専任教員1名
内容 次年度の奨学金に関する説明会(オンライン)に参加した。成人年齢が下がったことにより、申請書類の様式が変更になる等の新しく導入されるシステムを学んだ。新入学生にも円滑な対応ができるように努めていきたい。	
(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 令和4年度全国保育士養成セミナー	連携企業等: 一般社団法人 全国保育士養成協議会
期間: 令和4年8月25日(木)～26日(金)	対象: 専任教員1名
内容 「こどもたちへ繋ぐ自然と文化、そして命」をテーマに講演や分科会が行われる。	
研修名: 令和4年度実習指導者認定講習	連携企業等: 一般社団法人 全国保育士養成協議会
期間: 令和4年8月31日(水)～9月1日(木)	対象: 専任教員1名
内容 保育者の実習指導者として、養成校と学生の実情と課題を把握し、保育所実習における効果的な指導の方法と理論について学ぶ。	
研修名: 令和4年度保育士養成研究所第1回研修会	連携企業等: 一般社団法人 全国保育士養成協議会
期間: 令和4年11月6日(日)	対象: 専任教員1名
内容 「授業方法の検討から保育士養成の質の確保・向上を考える」をテーマに講演やシンポジウムが行われる。	
研修名: 全国保育士養成協議会中部ブロック第25回セミナー	連携企業等: 一般社団法人 全国保育士養成協議会中部ブロック
期間: 令和4年12月10日(土)	対象: 専任教員1名
内容 「つながりを意識した保育者養成を目指して～保幼小接続・連携の課題と展開～」をテーマに講演やシンポジウムが行われる。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 未定	連携企業等:
期間:	対象:
内容	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

企業等の役員、職員、その他必要な委員からなる学校評価委員会が、本所職員が行った自己評価の評価結果を評価することによってその客観性や透明性を高め、得られた助言を本所の教育活動の向上および学校運営の改善に活かす。また、その結果を公表することにより幼児教育、保育福祉の分野に貢献できる専修学校であることを広く社会に認められることを目指す。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 教育成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域連携
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学生募集について、さまざまな方面へ間口を広げたら良いという意見があり、県内、石川、新潟(糸魚川)の高校に加え、初めて岐阜方面(高山)の高校にも出向いて募集要項を届け、学校のPRをすることにした。また、本所の良さが外部に伝わりにくい、知名度が低いという意見から、今年度は学校行事をどんどんマスコミに取材してもらい、積極的に学校の情報を発信していくことになった。学校を知ってもらうことで学生募集にもつながり、結果的に財務の厳しさが緩和されていくことから学生募集には力を注いでいきたい。

学生生活を充実させ、満足度の高いものにするために、コロナ禍で縮小しがちだった学校行事を復活させていきたいと考えているが、新たな試みとして同じ法人の高岡法科大学と連携し、「法科大学祭」に参加することになった。これに関しては学校評価委員からも良い取り組みだとの意見があった。本所のみならず学園全体の賑わいの創出に寄与していきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
南 修朗	学校法人 高岡第一学園 高岡第一高等学校 校長	令和4年4月14日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
中田 千津子	社会福祉法人 かつみ野 堀岡保育園 園長	令和4年4月14日～令和5年3月31日(1年)	企業等委員
柳瀬 明美	学校法人 高岡第一学園 牧野みどり保育園 園長	令和4年4月14日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
高橋 和克	父兄後援会	令和4年4月14日～令和5年3月31日(1年)	父兄後援会理事

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: http://www.takaoka1.com/youseisho/information/documents/se_iinkai_R3.pdf

公表時期: 令和4年5月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

昨今、職業教育機関における教育研究活動とそれに通じた社会貢献への期待は高まりつつある。本所もそうした社会的要請に応えるべく、教育及び研究活動について様々な情報を広く社会に提供することを社会的責務と考える。特に幼児教育・児童福祉の現状に対して幼稚園教諭・保育士・保育教諭という専門職を養成する機関として人材養成の面からいかにアプローチしていくかを社会に伝えていくことも重要な使命であると認識している。このことから本所の教育(研究)活動等に関する情報を社会に公開することに努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・高岡第一学園沿革 ・建学の精神 ・教育目標 ・学校の特色 ・その他の諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	・学則 ・カリキュラム
(3)教職員	・教職員数 ・高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所組織図 ・教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育への取組 ・就職支援への取組 ・学生の免許・資格取得状況
(5)様々な教育活動・教育環境	・キャンパスライフ(年間行事への取り組み) ・部活動
(6)学生の生活支援	・卒業生の就職状況 ・保険制度について
(7)学生納付金・修学支援	・財務情報(学校法人高岡第一学園)
(8)学校の財務	・学校評価自己評価表 ・自己評価報告 ・学校関係者評価委員会報告
(9)学校評価	・学校評価自己評価表 ・自己評価報告 ・学校関係者評価委員会報告
(10)国際連携の状況	
(11)その他	・富山県委託職業訓練(長期高度人材育成コース)

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.takaoka1.com/youseisho/information/index.html>

公表時期: 令和4年5月31日

授業科目等の概要

(教育社会福祉専門課程幼児教育科)																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
	○			日本国憲法	現在の日本における中心的な法である日本国憲法を学ぶ。具体的には(1)日本国憲法の基本的な原理に関すること、(2)自由・権利に関すること、(3)政治の仕組みに関することの3点について、憲法の条文やこれまでの議論などを手掛かりにして、考えていく。	1前	30	2	○			○					
	○			倫理学	教育に携わる者の一般教養として、倫理学の諸問題について学ぶ。保育士の倫理綱領をはじめとし、「生命」「身体」についてのテクノロジーの発展に伴う人間関係の変容をめぐる倫理の問題、「環境倫理」「正義・悪」をめぐる問題、「責任」をめぐる問題などの応用倫理学のテーマも取り上げる。日本をはじめ、世界の諸事情についての情報を取り入れつつ、現実の具体的な問題の中で人間生活の規範である倫理について学ぶ。	1後	30	2	○			○					
	○			歴史学	一般教養として歴史的事実やそれらの因果関係などを理解し様々な事柄を適切に把握するために必要な歴史的思考力を身に付ける。具体的には、本学の立地する富山県を中心とする北陸地域の前近代史を題材とし、近代以降において「裏日本」と揶揄されるようになった日本海側地域が実は前近代において中国や朝鮮との外交や海運など物・人・文化の交流する“表日本”であったことなど、教科書では学ぶことのできない地域の豊かな歴史を知ること、幅広く深い教養や総合的な判断力を養う。	1後	30	2	○			○					
	○			文学	日本古来の伝統文化の教育が重要視されつつある今日、その根底をなすともいえる日本文学の代表的な作品(詩歌・小説・随想・評論等)に深く接し、外国の詩や小説にも目を向けてそれらに迫ることは教育に携わる者としての教養の涵養に極めて重要である。「文学」の授業では、講義のみに終始することなく、演習的要素も含めながら原典の購読を取り入れる。「一人一人が声を出して読む文学」を大切に講義を進め、作品理解につなげる。	1後	30	2	○			○					
	○			社会学	社会学の視点や考え方を紹介し、現代社会の問題を説明する方法について学ぶ。現代の社会学は、個人の社会的行為から社会全体に至る共同生活上のあらゆる事象、社会集団・組織とその内的世界を研究対象としている。学生が身近に感じている恋愛や性、結婚、家族などに関する社会事象を取り上げ、そこでの種々の問題について考え、解決の可能性と方向性を探りながら今の時代と社会についての総合的な理解を深める。	1後	30	2	○			○					
	○			人文地理学	われわれ人類の文化としての生活様式は、地球環境の変化や異種文化との競合などに翻弄されながら、世界各地で様々な進化してきた。動物のなかで言語と文字をもつのは人類のみであるが、その人類世界の衣食住・風習・宗教・家族相続・政治法律・芸術・医学その他を調査し比較することで、“人間とはなにか”が見えてくる。まず、日本・中国・台湾の食文化比較を中心に文化人類学を学ぶ。	1後	30	2	○			○					
	○			自然科学概論	20世紀の分子化学の急速な発展はヒトゲノムの解読をもたらし、今、多くの生命現象が分子レベルで説明可能となりつつある。この授業では、まず、生物の身体を構成する大部分の物質の骨格を形成しているC(炭素)の性質を学ぶ中で原子分子の基礎を学習する。次に多くの生命現象の中で、生物によるエネルギーの獲得と、遺伝子を取り上げて、これらの生命現象を、炭水化物の代謝機構と、DNAの構造から来る機能として考察し、進んでいる様々な遺伝現象を分子レベルで理解する。	1後	30	2	○			○					
	○			生物と環境	40億年前に地球上に生命が誕生して以来、生物はその成育する環境と関わり合いながら進化し、現在地球上には1000万種を超える生物種が生育していると考えられている。この40億年にわたる生物の進化と絶滅の歴史をたどり、進化を推し進めた原動力と、多種多様性の機構とを環境との関わりの中で探り、多様な生物種の中のヒトの位置を考える。また、地球規模に広がった人類の活動は様々な形で環境を破壊し、多くの生物種を絶滅に追い込んでいる。これらの環境破壊の現状を、生物と環境との関わり合いの中で学習する。	1前	30	2	○			○		○			
	○			統計学	平均、分散、要因分解法の基礎、金利計算といった記述統計学を網羅的に学び、実際にそれぞれ授業で学んだ内容を計算できるようにする。	1後	30	2	○			○					
	○			余暇支援論	積極的な余暇活動としての「遊び」は人間らしい心と身体を再創造する活動である。子どもから高齢者までの、全階層を対象に、また、健常者と障害者の垣根を越えて、文化活動、スポーツ活動、野外活動などの多彩な余暇活動について考える。余暇活動は、①人間らしい生活に欠かせない「楽しみ」を生み出すものである ②生活そのものを高めるものである ③人と人との関わりを豊かにし、自己実現と個性の発揮の機会ともなる。以上の視点から「ホモ・ルーデンス」を生き方として知り、遊びを軸とする新しい社会とライフスタイルについて学ぶ。	1前	30	2	○			○					

60	○	保育実習指導Ⅲ	「保育実習Ⅰ（施設）」、保育実習指導Ⅰの学びを基礎に、児童福祉施設その他社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力、子育てを支援するために必要な能力を養うことを目的とする。施設の生活を通じて、施設の社会化の現状と課題についても体験的に学ぶ。また、人間理解、社会福祉的人間観を深めることにより、利用者への自立支援方策を考える。	2 後	30	1	○	○	○	○	○	○
61	○	保育・教職実践演習	「保育・教職実践演習」は保育者として必要な資質・能力を形成・確認する科目である。個々のポートフォリオを踏まえ不得意分野については、振り返りの学習等を行いながら確実な資質・能力を身に付けさせることを目的とする。グループ討議・実技指導・ロールプレイング・事例研究・模擬保育等学生の状況に合わせて授業を工夫・展開する。	2 後	60	2	○	○	○	○	○	○
62	○	ボランティア実習	幼稚園の役割を理解し、幼児を対象とした保育の方法を身に付ける実践実習の第一段階である。子どもとの活動を通して、子どもの発達や遊びに対する理解を深め、幼稚園教育の本質について実践的に学びを深める。また、行事に参加することで、幼稚園の行事の在り方や教師の役割等について学ぶ。	1 通	45	1	○	○	○	○	○	○
63	○	舞台表現法	舞台での立ち居振る舞いや発語法、発声法を実践を通して学び、保育現場で生かすことのできる力を養う。	1 通	30	1	○	○	○	○	○	○
62	○	卒業研究	「卒業研究」は、2年間の学びの集大成として、学習内容を論理的・系統的にまとめ、保育・教育の領域で実践的指導力をつけるための課題に向けて主体的に研究を行う。様々な科目を履修する中で、自ら興味・関心を持った領域を絞り、テーマ設定をし、計画をたて、指導教員の指導を受けながら、調査・研究を深める。	2 通	60	2	○	○	○	○	○	○
合計					64 科目		109 単位（単位時間）					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：（卒業要件）本所に2年以上在学し、次の各号に該当する者につき、本所の教員会にはかり、卒業の認定を行い、これに合格した者に所長が卒業証書を授与する。（1）第11条の第1号に定める単位を修得した者 （2）第11条の第2号に定める単位を修得した者 （3）第11条の第1号及び第2号に定める単位を修得した者		1学年の学期区分	2期
履修方法：講義・演習・実習		1学期の授業期間	26週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。